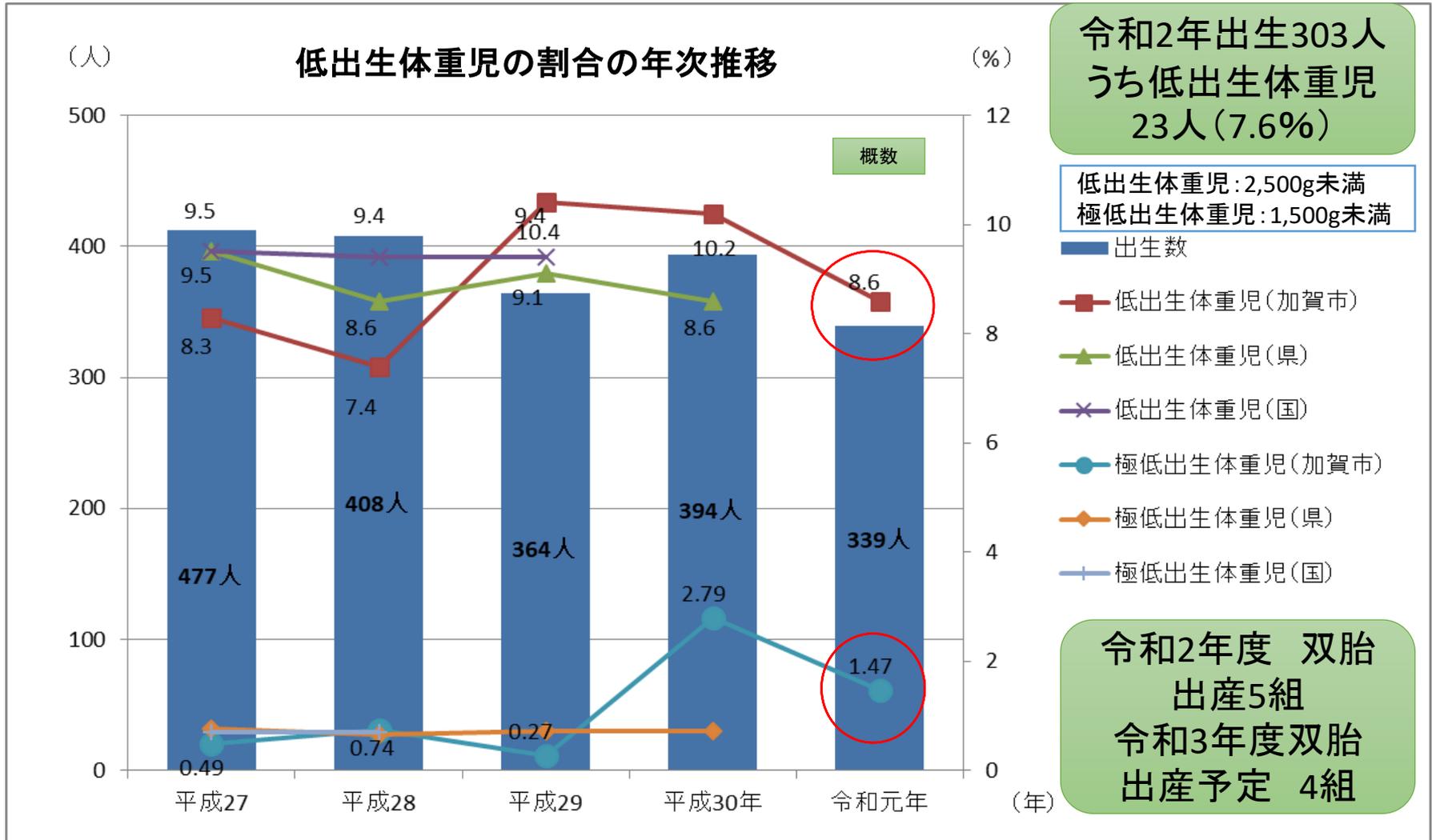


令和3年度の主な取組みについて

②母子保健対策

主な実績と令和2年度の対策



- ・令和元年の2,500g未満の低出生体重児の出生は8.6%(29人)と減少。(目標値4.5%)
- ・令和元年の1,500g未満の極低出生体重児の出生は1.47%(5人)と減少。(目標値0.4%)
- ・低出生体重児を出産した妊婦のリスクをみると、双胎の出産はなし。肥満・やせの割合は減少したが、妊娠高血圧症候群(蛋白尿)、貧血の所見の割合はやや増加している。

主な実績と令和2年度の対策

○母子健康手帳交付・出産準備金申請時の面接 支援が必要となる妊婦を把握している 〈要支援・特定妊婦の把握と継続支援〉

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
母子手帳交付時妊婦面接件数(転入時含)(a)	456人	420人	429人	383人	383人
要支援妊婦(妊娠ライフプラン対象者)(b)	125人	122人	151人	122人	129人
特定妊婦(c)	35人	56人	66人	45人	35人
割合(b/a)	27.4%	29.0%	35.1%	31.9%	33.7%
割合(c/a)	7.7%	13.3%	15.4%	11.7%	9.1%

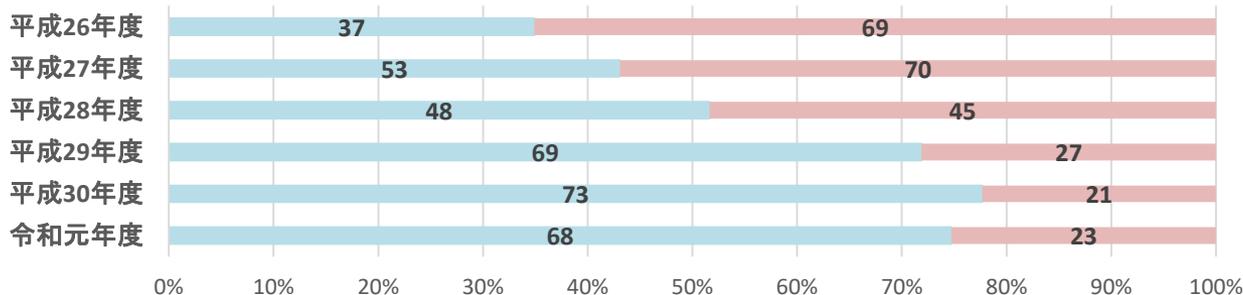
令和2年度(1月末現在)
母子健康手帳
交付数295人
うち要支援妊婦
103人(34.9%↑)

○乳児家庭全戸訪問事業 生後4か月を迎えるまでの全ての乳児のいる家庭を対象に訪問 (1月～12月生)、必要な情報提供や支援を実施する。

年度	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
訪問世帯数	444	423	420	392	399	380
訪問率	100%	100%	100%	100%	100%	100%

令和2年度
100%実施
見込み

○産後要支援者(市が妊娠期を通して把握したり産後訪問や医療機関等から把握した継続支援が必要な産婦)

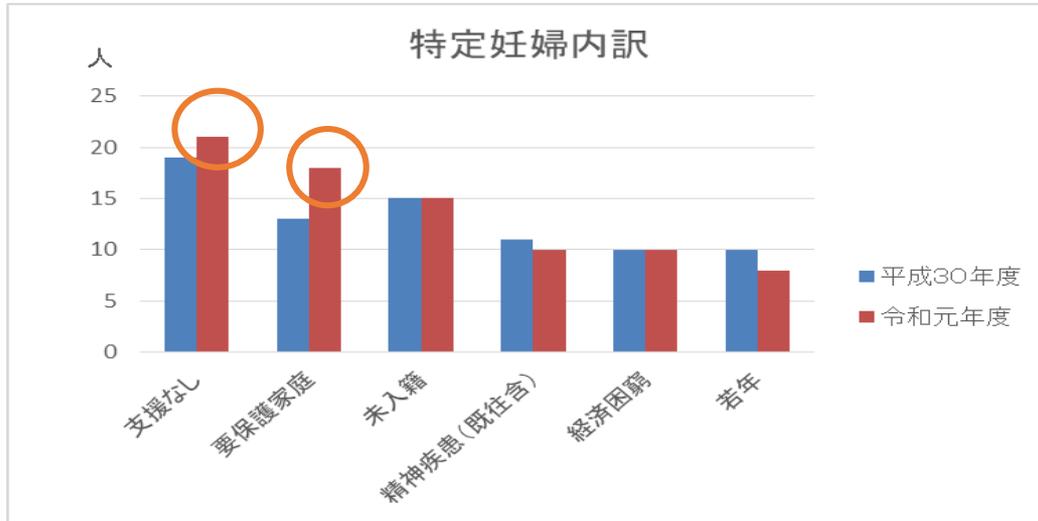


妊娠期から支援の必要となる妊婦を把握し支援している。

令和2年度
産前から支援している
妊娠ライフプラン対象者
は103人(1月末現在)

■ 妊娠期から支援している要支援者数(若年、精神疾患既往、育児不安など)
■ 産後からはじめて支援した要支援者数(産後うつなど訪問や産婦健診で把握)

主な実績と令和2年度の対策



	平成29年度	平成30年度	令和1年度
妊婦訪問 (実人数)	21人	16人	22人 ↑
妊婦訪問 (延人数)	35人	21人	43人 ↑

妊婦の支援が増加している

- * 要支援妊婦とは、高血圧等疾患管理が必要な妊婦や産前産後の支援が必要となる妊婦（特定妊婦含む）
- * 特定妊婦とは、出産後の子どもの養育について出産前から支援を行うことが特に必要と認められる妊婦

妊娠期の相談支援強化事業（県モデル事業）

- ・妊娠期から、不安や育児に困難を抱える、若年、未婚、多胎等の妊婦を対象に県・助産師会・市が連携して切れ目のない支援を行う。
- ・妊娠や出産の専門家である助産師と連携して訪問や電話、助産院での相談、ケア等を継続的に行い、支援体制を強化した。

令和2年度：妊婦4名実施（外国人2人、支援なし未婚2人）

令和2年度はコロナ禍で里帰りできない支援のない妊産婦（外国人）、経済困窮している妊産婦が増加している。

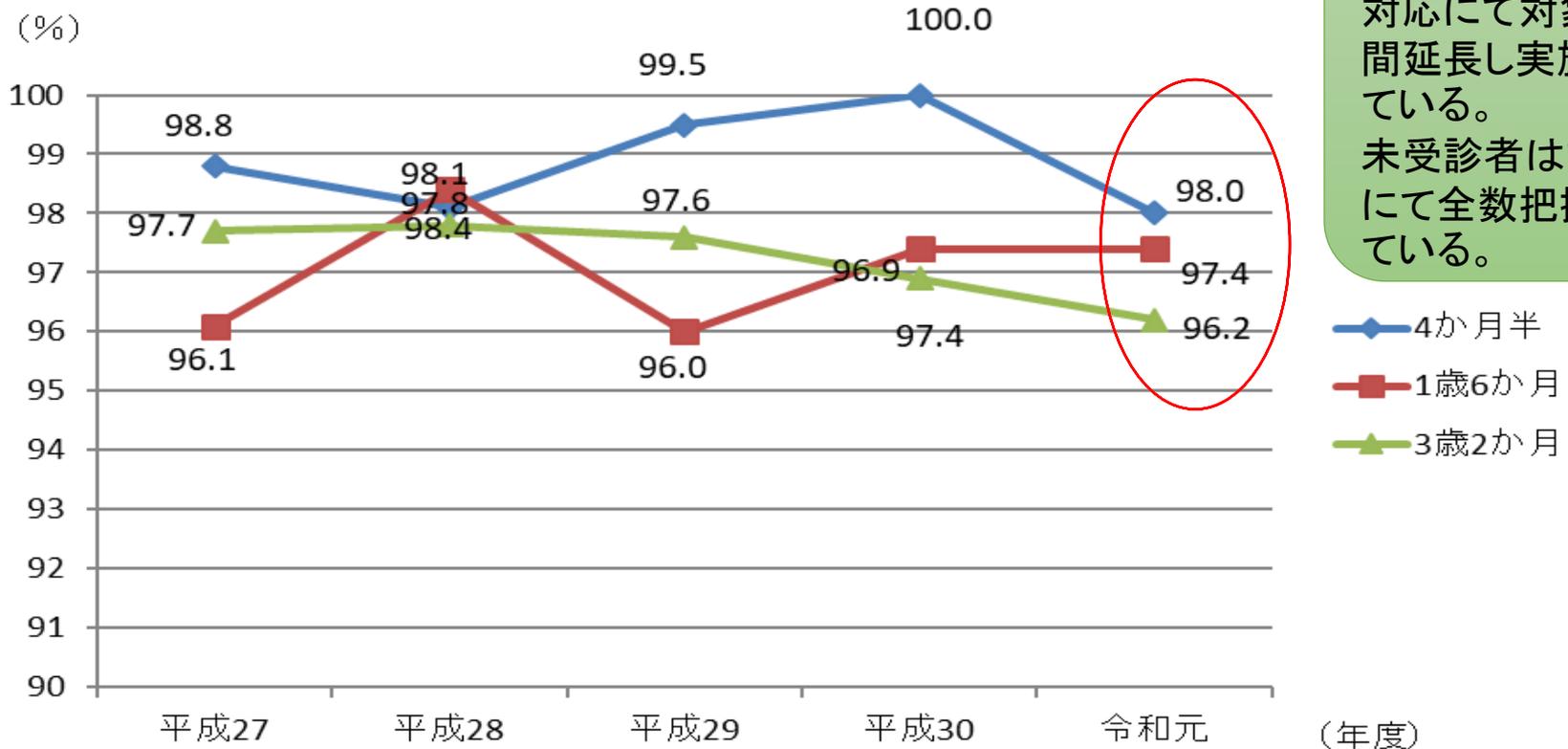
- ・外国人対応として翻訳機の活用。
- ・オンラインによる個別相談体制を整備した。



主な実績と令和2年度の対策

○乳幼児健康診査 乳幼児期の発育発達の確認だけでなく、子育て相談の機会でもあり、未受診者には電話や訪問等により状況を把握し受診勧奨している。

乳幼児健診受診率



新型コロナウイルス感染症防止対応にて対象期間延長し実施している。
未受診者は訪問にて全数把握している。

- ・4か月半児健診—目標値100%
- ・1歳6か月児健診—目標値98.0%
- ・3歳2か月児健診—目標値97.5%

4健未受診者4名はいずれも医療機関管理中(入院中等)にて不参。1.6健、3健未受診者は、仕事が休めない等保護者理由にて不参が多い。

主な実績と令和2年度の対策

3歳2か月児健診にて「スポットビジョンスクリーナー」導入

- ・目の検査の精度向上を目的に、簡易に検査ができて精度が高い「スポットビジョンスクリーナー」による屈折検査を導入し、R2.7.30より開始した。(新規)



令和2年度1月集計 受診者254人うち眼精密検査数29人(精検率12.9%)

令和元年度眼精密検査数30人(精検率7.9%)

→29人中、自宅で視力検査できた12人を引くと眼精密検査数17人(精検率6.7%)

→自宅で検査できた12人のうち、6人要治療、1人経過観察、2人異常なし、3人未把握

新型コロナウイルス感染症対策

- ・延期・休止した事業の対象母子へ電話等の個別対応とした。再開時は「3密」を避けて実施した。
- ・4か月半児健康診査を医療機関にて個別健診導入した。
- ・赤ちゃん訪問など、個別対応はお互いの体調等確認して実施した。
- ・7か月・10か月児教室の離乳食の指導を映像化して開催した。
- ・加賀市健康だより臨時号にて、「おなかの赤ちゃん」と妊産婦を大切にすまちづくり」を啓発普及した。



主な実績と令和2年度の対策

○歯科保健対策

- ・保育園等にてむし歯予防教室の開催を早期からのむし歯予防として3歳前の親子を対象とする。
- ・乳幼児健診の歯科指導、7・10か月教室にてむし歯予防とブラッシングの講話

令和元年度実績

- ・「歯と口の健康週間行事」歯科健診とフッ素塗布(加賀市歯科医師会委託) 509人

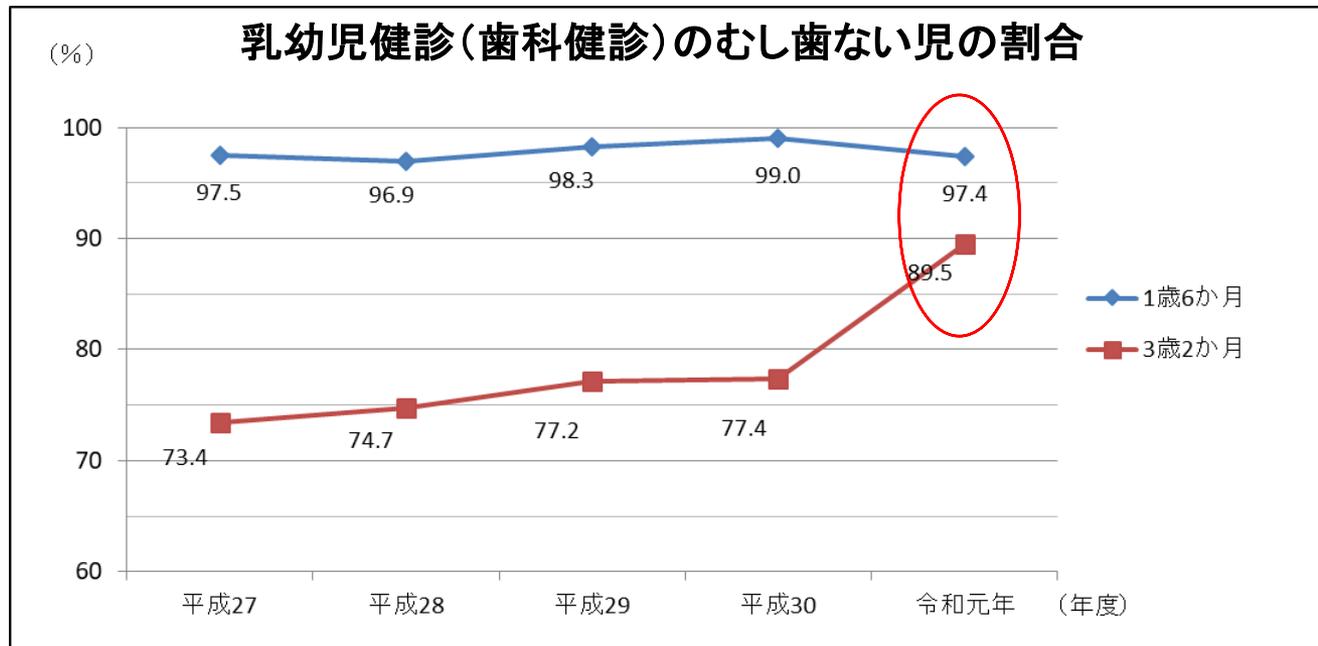
令和2年度中止

- ・むし歯予防教室 7か所 保護者145人、幼児85人

令和2年度 親子ほっとステーションのベビーサロンにて実施予定(4回)

- ・妊婦歯科健診(医療機関委託H30.4～) 受診率45.3%↑(H30年度32.2%)

令和2年度110人(12月末)42.4%

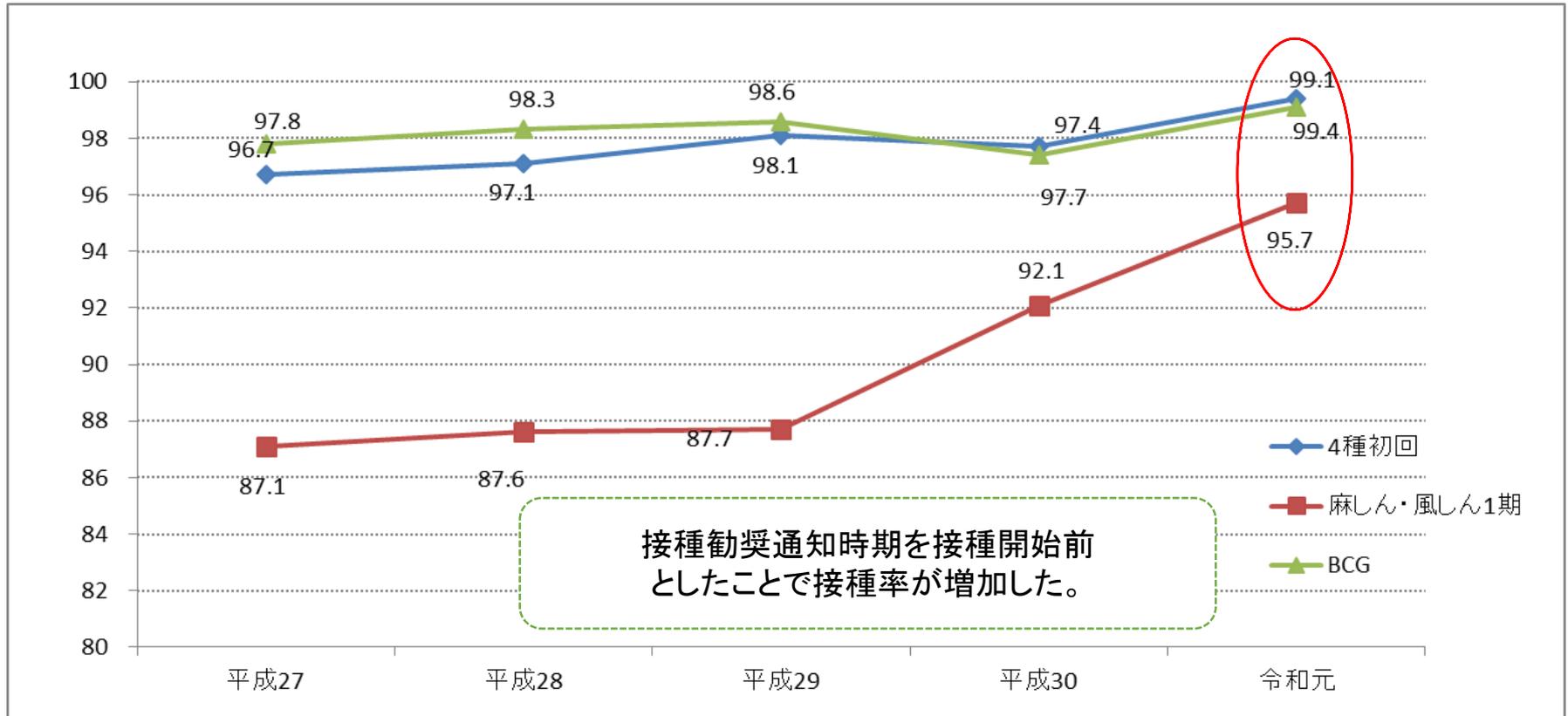


3歳2か月児健診にてむし歯のない児の割合が増加した。

主な実績と令和2年度の対策

○予防接種 麻しん風しん混合ワクチンは1歳の接種開始時期前に勧奨通知

1歳6か月児健診時 4種混合ワクチン、麻しん・風しん混合ワクチン、BCG接種率



- ・四種混合(初回) 目標値98.0%
- ・麻しん風しん混合1期 目標値97.0%
- ・BCG 目標値98.0%

令和2年度

コロナ禍の中、医療機関を避けて予防接種を控えることのないように新生児訪問等で周知した。

母子健診情報デジタル化事業

電子生涯健康手帳の実現に向けて ～学校健診・母子健診情報のデジタル化と 個人へのフィードバック～

【主な内容】

- ・学校健診情報と乳幼児健診情報をデジタル化
- ・アプリ開発・活用による個人へのフィードバック
- ・将来的には、妊婦健診情報をデジタル化

自治体で全国初！



※アプリ画面のイメージ

令和2年4月から、乳幼児健診(4か月半児・1歳6か月児・3歳2か月児)の結果をOCR票によりデジタル化を行い、保護者同意のもとスマートフォンアプリから閲覧できる取り組みをはじめた。



令和2年1月31日
京都大学大学院医学研究科川上浩司教授(左)と宮元市長(右)

主な実績と令和2年度の対策

双方向性睡眠教育アプリ「ねんねナビ®」社会実証事業開始



- ・大阪大学・金沢大学などとの共同研究により開発中の、保護者と睡眠の専門家グループ(小児科医・臨床心理士・臨床発達心理士)との双方向コミュニケーションを可能とする「乳幼児の睡眠教育」アプリの社会実証事業に取り組んでいる。(中部地方初)
- ・1歳6か月児健診で就寝時刻が遅い子ども、睡眠時間が短い子ども、夜間に目を覚ますことが多い子どもの保護者(9名)に対して指導を開始し、睡眠習慣が改善してきたという効果がでている。

【R2年度の事業実績】

- ・1.5歳児～2歳児の保護者 9名参加(夜寝るのが遅い、目を覚ます等で保護者が困っている子等)
- ・事業参加により、スマホ時間が減少し朝のリズムを整えた事で、「よく眠るようになった」と好評価

課題

1. 妊娠中から、産後の生活についてイメージ出来て、寄り添う支援が必要
2. 支援がない妊産婦が利用できる事業の実施
(コロナ禍の対策)
3. 多胎妊産婦の利用しやすい支援が必要
4. 低出生体重児・早産予防対策

令和3年度の母子保健対策

1. 子育て支援・母子保健施策の充実

①妊娠中の支援の強化

(新規)産前家庭支援ヘルパー派遣事業の導入

②産後の支援の充実

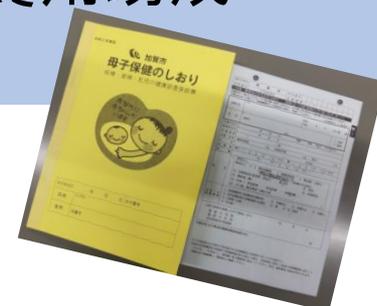
(拡充)産後ケア利用料を従来の半額にすることで産婦の経済的負担軽減

③多胎妊産婦の支援

(拡充)多胎児家庭の産前・産後家庭支援ヘルパー派遣事業利用料無料。利用回数拡大

(新規)出産予定日前5回分までの妊婦健診費用助成

(国補助金:多胎妊娠の妊婦健康診査支援事業)



令和3年度の母子保健対策

2. 低出生体重児・早産予防

(拡充) 妊娠期パパママ教室(からだと食事編)にて「タニタ食堂」のメニューを教材として、薄味の体験や野菜などの食事の適量やバランスを夫婦で学習する。

3. 母子保健事業における新型コロナウイルス感染症対策

(継続) 引き続き「3密」を回避し感染症対策に努め母子保健事業を実施。不安のある妊産婦・母子には電話やオンラインによる相談対応も活用して柔軟に対応する。



令和3年度の母子保健対策

4. 子どもの命を大切に作る啓発事業 (大阪大学・金沢大学との共同研究(ねんねナビ®))

- ・スマホアプリを活用し、家庭で睡眠・生活状態をモニタリングし、このデータをもとに専門家が睡眠改善のアドバイスを行う実証事業
- ・指導データを蓄積することで、AIによる指導環境が整備され、より多くの市民への活用がなされ、市の新たな子育て支援・児童発達支援へとつなげていく

「ねんねナビ®」活用児童の拡充と実証研究協力、菊知先生の「睡眠と発達」講演
 【対象児】睡眠で困り、かつ発達が気になるお子さん 15名程度
 【評価】ウェアラブルセンサー(加速度計)による睡眠時の体動変化の記録(詳細な記録)



	2020年度	2021年度
テーマ	ねんねナビによる睡眠教育と生活習慣(睡眠)改善	ねんねナビによる睡眠教育と生活習慣(睡眠)改善 × 加速度計測による客観的睡眠評価と発達障害における睡眠改善要素の抽出
対象	定型発達のお子様とその保護者 9組	定型発達のお子様とその保護者 発達特性のあるお子様とその保護者 計 15組

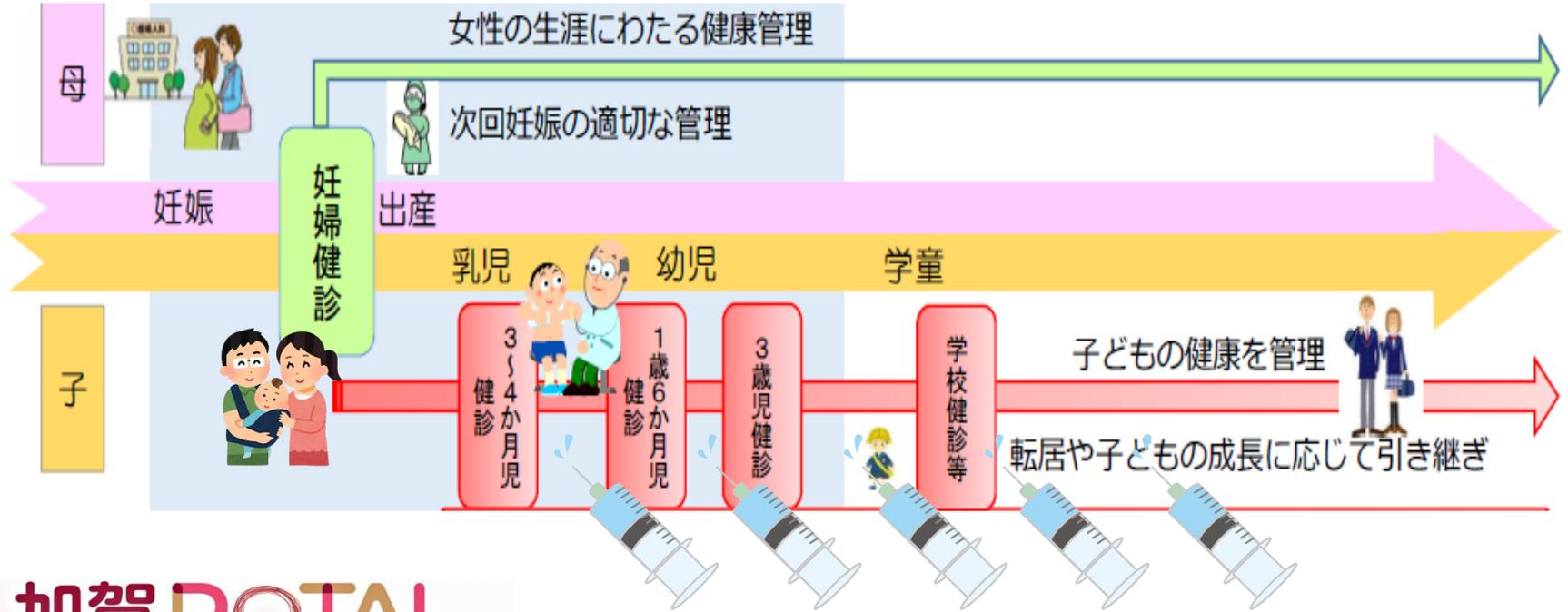
AI指導システム(パナソニック開発中)

- ・2021年度の実用化を目指している。
- ・実証自治体に対しては、先行利用等(有料アプリの一定期間のデモ利用等)還元できるように調整中



令和3年度の母子保健対策

【健診情報デジタル化の取組】



加賀POTAL

あなたに必要な情報がいろいろ揃う!
加賀市の地域情報ポータルサイト誕生!



連携

◎加賀POTALとの連携

◎予防接種履歴の入力



《保護者の利便性の向上》

◎健診結果のアドバイス

